

令和6年度研究主題のまとめと令和7年度の研究主題について

《本年度研究主題》 自分の思いや考えをもち、豊かに表現する子どもの育成

～複式・少人数指導における授業の個別最適化の視点に立った日々の授業実践を通して～

昨年度は、日々の授業実践を通して、複式・少人数指導における授業の個別最適化の視点に立った指導方法や1単位時間内においての児童の学びを深める学習展開や手立てについて、1年間研究にとりくんできた。

昨年度の成果として、複式学級における基礎的な学習指導の進め方について、共通理解を図ることができたことが挙げられる。今後、低学年も含めてほぼ完全複式になる本校では、複式学級の学習指導の基礎的な進め方を学び、共通理解を図っていくことが本年度の急務であり、「間接指導の際、児童だけでも授業を進められるようにしたい。」「西目小における学習者主体の授業とは何であるのか。」などの思いをもち、日々の授業を実践してきた。具体的にとりくみとしては、ガイド学習を進めるための、ガイドプレートやガイド学習の手引きの活用、デジタル教科書やロイロノートなどICT機器の活用が挙げられる。これらの手立てにより、児童一人ひとりが意欲的に学習課題に臨んだり、自分の設定した学び方で自力解決を図ろうとしたりする姿が見られた。また、児童一人ひとりの学びを見とるために、研究授業の際には市教委からいただいたデータを活用し、児童の学習の様子の実事のみを見とり、授業研究ではその事実の背景にあると考えられる「教師の発問や行動の等事実」を関連付け、また、今後の展望について、短期的・長期的な視点から課題解決に向けたアイデア等を全職員で共有することができた。そして、その後日々の学習指導に生かすことができた。

課題としては、複式学級の学習指導をさらに改善・充実することが考えられる。昨年度は、3・4年の複式学級と5・6年の複式学級で算数科の研究授業を行った。本校の実態として、少人数ではあるが学力差が大きいことが挙げられる。そのような実態を踏まえて「児童が目標を明確化し、自分に合った学習方法を選ぶことができ、理解できた達成感をもてる学習を行いたい」という職員の思いが授業に反映され、どの児童も学習する意欲が向上するような「個別最適な授業」の実践を目ざしていく必要がある。具体的には、「個別最適な授業は、どのような手段・方法、支援でつくるのか」を明確にして、普段の授業でできることを積み重ねることが重要であると考えられる。

《令和7年度研究主題》 自分の思いや考えをもち、主体的に表現する子どもの育成

～複式学級における学習指導の個別最適化の視点に立った日々の授業実践を通して～

研究主題及びサブテーマのイメージと手立て、目指す子どもの姿については、以下の通りである。

(1) 「自分の思いや考えをもち」について

学習課題を通して、友だちと互いの考えを伝え合い、自分の考えが伝わることや友だちの考えが分かる楽しさを大切にしたい。そのために、指導者は必然性のある内容や課題の設定を工夫し、児童には各学年における各教科科の表現方法に慣れ親しませ、それぞれの方法のよさを理解させる必要がある。また、積極的に自分の思いを伝えようとする児童を育成するために、「友だちに自分の考えを伝えたい」「友だちの考えを分かりたい」という気持ちを高めさせることが重要であり、自分の考えを伝えることに自信をもたせたり、友だちとの関わりに喜びを感じさせたりすることができる手立てを講じることで、児童が活動への満足感を覚え、積極的に自分の考えを伝えようとする。

【目指す子どもの姿】

- ・学習課題に対して、自分の考えを形成できる子ども

- ・進んで考えや思いを伝え合い、伝え合うよさや楽しさを感じることができる子ども
- ・自分の考えを伝えたいという意欲をもっている子ども

(2)「主体的に表現する」について

児童が、文章や具体物、図・表などの各発達段階に応じた表現方法を選び、積極的に自分の考えを表現しようとする姿を目指す。そのために、児童が各学年における各教科の表現方法を身に付け、それぞれの方法のよさを理解する必要がある。そして、伝え合う活動の中で、ICT 機器なども積極的に活用し、伝え方や表現の仕方のよさを感じさせることで、児童は主体的に表現をしようとする。

【目指す子どもの姿】

- ・学習課題に対して、自分の考えを分かりやすく工夫して形成できる子ども
- ・自分の考えを、友だちに分かりやすく伝える工夫ができる子ども
- ・自分の考えを分かりやすく伝えたいという意欲をもっている子ども

(3)「複式学級における学習指導」について

複式学級における学習指導について本格的に研究を始めたのは本年度からである。理論については、県総合教育センターから講師を招き、夏季休業中に研修を深めた。また、研究授業も2回実施し、「ガイド学習」や「主体的な学習を促す環境づくり」など、基本となる学習指導法についても、研究を進めた。令和7年度は、本年度の研究をベースにし、他校の先進的な研究も学びも積極的に取り入れて、学年別指導のさらなる充実を図る必要がある。

(4)「個別最適化の視点に立った」について

「個別最適化の視点」とは、「学習者主体の授業」づくり、そのものである。その実現には、「学習者主体」の視点、「生徒指導」の視点、「特別支援教育」の視点、「教育DX」視点という4つの視点で授業の土台を作ることが大切である。また、具体的には「子どもに学習を委ねる場面」と「子ども自身が自己選択・自己決定できる場面」を授業づくりで設定する必要がある。そのような授業づくりを進めていく上では、授業の中で「指導者がどのような発問や指示をするのか。」「子どもの学び支援するためどんな準備を行うのか。」などに重点を置き日々の授業実践を重ねることで、個別最適な授業は、どのような手段・方法支援でつるのかが明確になってくると考えられる。

テーマ研究以外で、R7年年度実施したい内容（アンケートより）

- ICT 機器の使い方にかんする研修（スズキ校務・ロイロノート・ドリルパーク・373る・MIM）
- 呼吸法（アングーマネジメント・リラックスするには・・・）
- 子どもたちが犯罪に巻き込まれないようにするために、SNS の危険性を具体的な事例で周知できるような研修

<他、昨年度実施した内容等>

別紙、研修スケジュール左側に記載